

北海道高等学校遠隔授業ネットワーク

背景

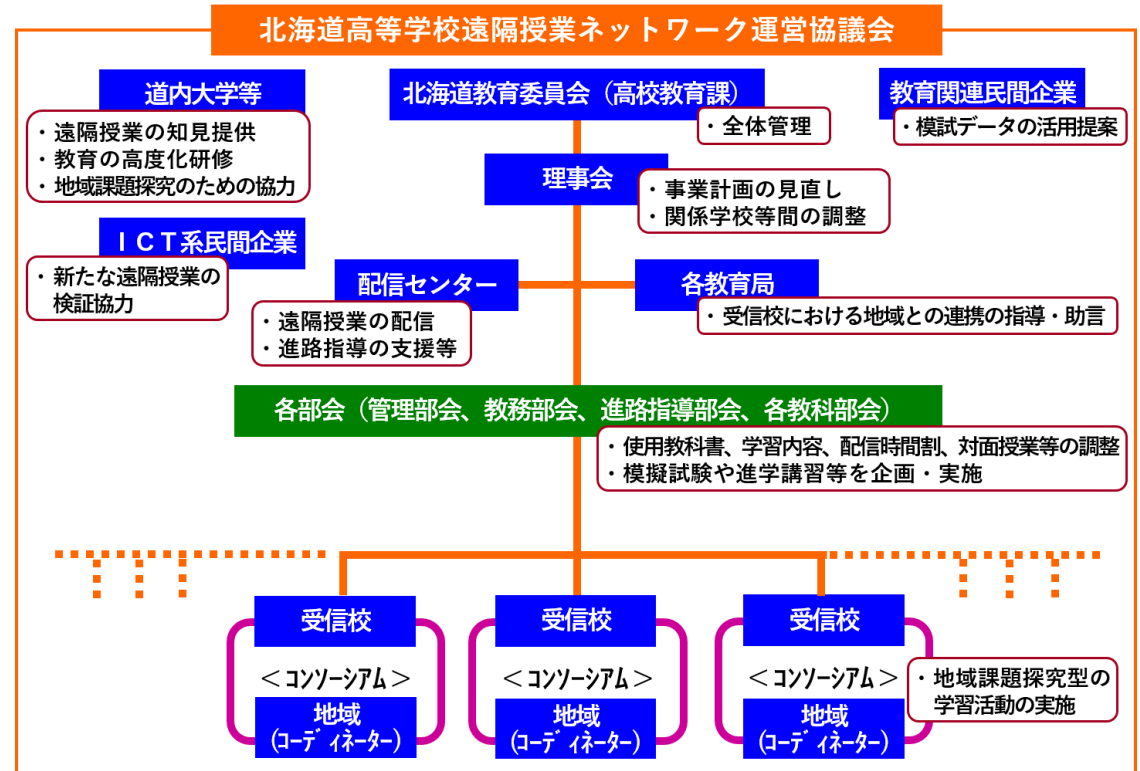
- ①広域分散型の地理的特性と高校の小規模校化
- ②地域の高校への進学率の低下
- ③小規模校における大学等への進学率の低下
- ④次代の地域の担い手の創出の必要性

課題

- 教員配置数が減少する中、多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成・実施をどのように行うか。
- 生徒数が減少する中、切磋琢磨できる環境の整備をどのように行うか。
- 持続可能な地域の実現（地域創生）が求められる中、地域と連携・協働した取り組みをどのように行うか。

目的

遠隔授業の取組やコンソーシアムの構築により、全道どの地域においても、多様で質の高い高校教育を実現するとともに、生徒の地域への理解を深め、ふるさとに誇りと愛着を持って、地域の発展に貢献しようとする人材の育成を図る。



取組状況	今年度の成果	今後の課題
遠隔授業の取組 ●受信校29校に8教科25科目の遠隔授業を配信●複数校への同時配信授業●長期休業期間中の進学講習（平常日での試行実施）●配信センター教員を講師とした授業・クラウド活用研修会	今年度の成果 ●R5時程統一●地元を離れずに地元の高校に進学●クラウドサービスを活用した指導方法の知見蓄積●配信教員の指導力向上●受信教室に配置する教員以外の職員の活用●受信校生徒間の切磋琢磨・交流する機会の確保	今後の課題 ●配信センターの狭隘化●対面授業の実施に伴う時間割変更●合同授業配信●受信校からの配信教科・科目拡大の要望への対応●教員人事（質の高い教員の確保）
コンソーシアムの構築 ●各校における地域課題の解決に向けた探究的な学びに係る取組●地域との連携・協働による高校魅力化（多様な進路を実現するための学びの保障／地域を学びの場とした教育活動の推進）	●「地域創生に向けた高校魅力化の手引」に基づく取組状況の管理●取組が進んでいる学校の先事例を共有●受信校への個別訪問による取組状況の把握、効果的な取組についての指導助言	●体制構築に向けた進行管理